

開花情報

2021. 4. 8 撮影

ハンカチノキ



ミズキ科の落葉高木。中国原産で、白い花に見えるのは2枚の総苞片。風にゆれたハンカチがヒラヒラ光るように見えます。排水のよい沢すじに多く見られます。乾燥と強い日射しは苦手です。近年では人気のある花木になり、多くの人が開花を楽しみにしています。



カリカンサス' ハートレヅジワイン'



ロウバイ科の落葉低木。ハートレヅジワインは、夏ロウバイと黒ロウバイを掛け合わせた品種。花は5～6月に咲き、鮮やかなワインレッド色の花はひときわ目立ちます。暑さや乾燥に強く育てやすい。

アオダモ(青栴)



モクセイ科トネリコ属の落葉広葉樹。バットの木として知られる。日本全国の山地に自生する。本来、庭木としての利用は少なかったものの、春先に咲く花、涼しげな枝ぶり、幹に浮かぶ白点に観賞価値があるとして、雑木の庭を中心に個人の庭にも植えられるようになった。株立ちに人気が集まる。

レンゲツツジ(蓮華躑躅)



ツツジ科ツツジ属の落葉低木。つぼみの様子が蓮華に見えることから名付けられたという。

シャクナゲ(石楠花)



シャクナゲは、ツツジ科。常緑で主に低木だが、高木になるものもある。

シャクナゲの原種が19世紀中期、プラントハンターによって中国から西欧にもたらされ、その花の美しさと豪華さで当時の人々を驚嘆させ、数多くの交配が行われています。

ヒメウツギ(姫空木)



ユキノシタ科の落葉低木。名前のおり小型のウツギで、日当たりの良い川岸に多いが、条件の厳しい石灰岩などの岩場でも見られる。管理しやすく、グラウンドカバーとしても使えるため、庭木としてはウツギよりも人気が高い。

カラタネオガタマ(唐種招霊)



モクレン科マグノリア属の常緑小高樹。晩春～夏、バナナのような強い甘い香りのする小さな花を咲かせる。

ハクサンボク(白山木)



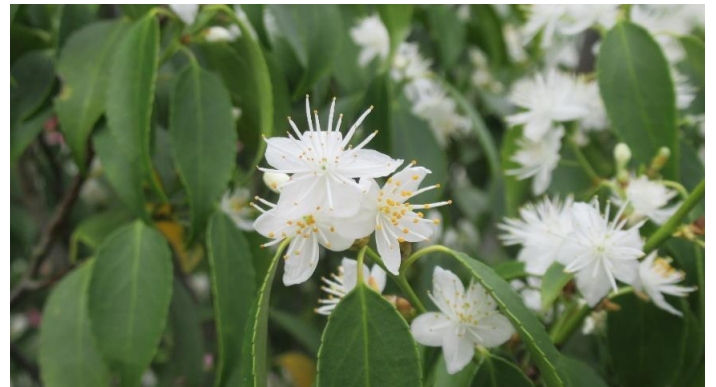
レンプクソウ科ガマズミ属の常緑小高木。日本全域で見ることが可能。冬に紅葉し、秋に赤い実がなる。



ハイノキ(灰の木)

ハイノキ科ハイノキ属。庭に植えやすい常緑樹。主張しすぎない姿で、他の草花との相性もいい。きれいに枝を伸ばし、艶のある緑の葉っぱを茂らせる姿は、洋風の庭にはよく映えます。また、生長もゆっくりで、剪定の手間が少ない。

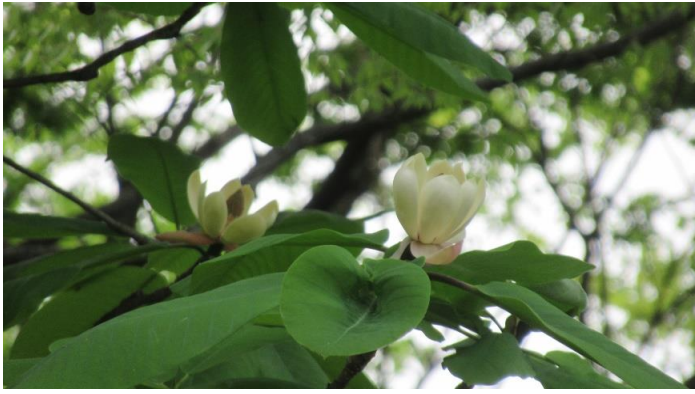
ハイノキは約300種類あると言われており、海外ではアジアやオーストラリアなどの温暖地で、日本では関東から西の本州や四国、九州で自生しています。



トチノキ(栃木)



タイサンボク



ニシキギ(錦木)



ロドレイア



ドウダンツツジ(灯台躑躅)



「キセキレイ」の卵



会社の玄関付近に巣づくりを始め、4月5日から毎日1個の卵を産んでいます。(9日朝の写真)

スズメ目セキレイ科。体長20cmほどで、頭から肩、背にかけてが灰色、上腹部が白色、下腹部が黄色。崖のくぼみ、枝の茂み、人家の軒下などに、枯れ草や植物の根を使った皿状の巣を持ち、1腹4～6個の卵を産む。抱卵期間は12～14日で、主に雌が抱卵する。雛は11～13日で巣立ちし、その後数日で親から独立する。



さんぽ道ネットショップ

<http://www.sanpomichi-shop.com/>



お問い合わせ

久留米市田主丸町地徳3558番地1

内山緑地建設株式会社 総務部

0943-72-2138(平日のみ8:00~17:00)

さんぽ道ホール

0943-72-4580(10:00~17:00)